

はじめに

松本大学は本年（2006年）3月で、4年間に亘る大学設置計画を滞ることなく完了し、4月より「観光ホスピタリティ学科」を新たに開設しニュー松本大学としてスタートしました。スタッフもニューフェイスが増え分野もさらに多様になり、研究内容も一層多彩になりました。

「地域総合研究」は、本学の地域総合研究センターの紀要ですが、本学（総合経営学部、松商短期大学部）の教員は全員本研究センターの研究員でもあります。

本号は、第一部が研究員研究報告として13篇の研究論文と1篇の研究ノートで構成されています。第二部として2005年4月より2006年3月までの研究センターの活動報告が掲載されています。そして第三部が松本大学アニュアルレポートとなっています。

第一部の研究報告は、学生指導の問題、健康づくりの運動指導の問題、観光問題等々バラエティに富んでいます。内容的に前号までと明確に違う点は「観光ホスピタリティ学科」の増設に伴う観光関係の研究報告が多いことです。今後地域社会の観光活性化策の策定に大きな貢献が期待されます。

第二部の地域総合研究センターの活動報告は、1. センターの活動実績と 2. センターの調査・研究活動内容に分けて纏められています。当センターの研究活動は、玉井袈裟男・岩原正典・今井朗子の三名のセンター研究員の地道で誠実な研究活動に支えられているところが多く、その研究報告は本紀要に膨らみを与えるものになっています。

第三部のアニュアルレポートは、すべての研究員のこの一年間の研究・教育・社会貢献についての詳細な報告となっています。このレポートからは、本学の教員スタッフが本学の志「幸せな地域社会づくりへの貢献」を共有して奮闘している姿が浮かび上がってきます。

「松本大学研究紀要」と「地域研究」という本学の二つの研究公表誌が年毎に充実度を増していることが実感されますが、これは取りも直さず本学の教育を担うスタッフ全員の意識の高さを証すものだと確信します。

本誌がいささかでも幸せな地域社会づくりのお役にたてば、これに過ぎる喜びはございません。みなさまの忌憚のないご批評、ご意見をお寄せください。

2006年7月

松本大学学長
松本大学地域総合研究センター長 中野和朗